



地域医療連携室だより Vol.147



発行元 地方独立行政法人
 市立大津市民病院 地域医療連携室
 住所 〒520-0804
 滋賀県大津市本宮二丁目9番9号
 電話 077-526-8192
 F A X 077-522-0192 発行日:2021年8月1日

市立大津市民病院 検索

だより内に  が 5ヶ所登場しています。ぜひ探してみてください。疫病退散。


当院の Rapid Response System Rapid Response Team

救急診療科・集中治療部：藤野 光洋 

集中治療認定看護師：森 俊之 

Rapid Response System (RRS)は、病棟で患者さんの状態が悪化した際に、発見者(職種を問わない)が主治医や上級医を呼ばずに、医師や看護師で構成されるチーム(Rapid Response Team: RRT)を直接コールし、RRTが病棟に行き必要な処置を行う、というシステムです。院内で急変し、残念ながら心肺停止に至る患者さんの生命予後は未だ非常に悪く、心肺停止に至る患者さんの実に84%が心停止以前の8時間以内に呼吸や意識レベルの悪化など生理学的異常や徴候を示している、と言われています。この8時間以内の異常所見を早期に拾いあげ、適切な対応を行うことで、予期せぬ心肺停止を防ぎ、患者さんの予後改善に寄与する、というのがRRSの発端です。

このシステムは、本邦では大病院を中心に近年急速に浸透し始めていますが、海外と比較して十分ではありません。また、このシステムには、患者さんと接する時間(観察できる時間)が最も長い病棟看護師の異常所見の発見、認識が欠かせません。当院のRRSは、体温、呼吸、循環、意識レベルなど一定の基準(資料1)を設け、その基準に引っかかった際にRRSを起動する、というものですが、起動基準の理解や普及も重要です。そのため、RRS本委員会とは別に、各病棟ナースで構成されるリンクナース会を立ち上げ、患者さんの異常所見の認識、RRS起動基準の理解を促すために教育活動などを担っています。

RRSコール基準 (以下の2項目以上当てはまればコール)	発見者→リーダーNsに報告
T: 35.0℃ ↓ 39.0℃ ↑	リーダーNs→PHS「7474」に報告
P: 40回/分 ↓ 130回/分 ↑	病棟・病棟番号・患者氏名・年齢・主疾患・状態を報告
R: 8回/分 ↓ 30回/分 ↑	★リーダーNsが多忙の場合は誰かが代行する
SpO2: 90% ↓ 尿量: 50ml/4H以下 (腎不全は除く)	【土日祝日、夜間は3B当直コール】
Bp: SBP90mmHg ↓ 200mmHg ↑ (主治医指示優先)	【CPAは、ICU医師も3B当直医師もコール】
意識レベル: 落ち着き無し・せん妄・傾眠・痙攣	ICUは「2350」「2351」
※スタッフによる患者に関する何らかの懸念	RRS「呼んでくれてありがとう」がモットーです 笑顔で対応しましょう 

リンクナースの役割としては主に「広報」「新人教育」「勉強会」「物品管理」のグループに分かれ、各病棟のリンクナースを通じて取り組みを行っています。広報は毎月RRSに関わる情報などをポスター形式にまとめて全職員にメール配信し、啓蒙活動を行い、新人教育は新人および中途採用者に向けてRRSの教育を実施しています。勉強会係は知識の薄れなどの補足目的のため全職員対象で年2回程度の勉強会を行っており、最後に物品管理については救命に欠かせない救急カートの整備を実施し、迅速な救命の準備を行っています。

当院ではRRSを立ち上げてから数年経ちますが、まだまだ院内での普及も十分ではありませんが、患者さんの状態悪化を早期に認識し、予期せぬ心肺停止を防ぎ、ひいては患者さんの予後改善に寄与するべく、これからも啓蒙を含め活動していく所存です。





薬剤部 薬剤長：早川 太郎 はやかわ たろう



2021年4月より薬剤長に就任致しました早川太郎です。薬剤部は院内の医薬品の適正使用や安全管理を担う責任部門として機能しています。ここ数年、薬剤師を取り巻く環境は大きな変化を遂げており、その変化スピードは年々加速しているように感じます。

2021年4月から当薬剤部は日本医療薬学会「地域薬学ケア専門薬剤師制度」の研修基幹施設としてスタートしました。現在は院外薬局から3名の薬剤師が毎週火曜日の朝に薬剤部の薬物治療カンファレンスに参加しています。

また、11月からは全診療科を対象とした入退院センターでの薬剤師業務が本格的に稼働する予定です。ここでは当院に入院予定の患者さんに対して、服用中の薬剤・健康食品・サプリメントの確認を外来受診時に行います。院外の保険薬局の皆様には同意書や薬剤管理依頼票の確認、1包化されている薬剤の再分包などをお願いするケースが増えると思いますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

検査・処置・手術における常用薬休薬または継続に関する説明と同意書

診療科	内科	検査・処置・手術予定日
患者ID	0099903080	
	テスト ヤクザイ	生年月日 1965/01/01
患者氏名	テスト 薬剤 様	年齢 56 歳

検査・処置・手術時には休薬または継続が推奨される薬剤があり、患者様ごとに対応する必要があります。当院では、検査・処置・手術時の常用薬休薬または継続について、担当医が判断・指示いたしますので、以下の説明書をよく読み、指示に従って下さい。また、処方されているすべての常用薬について、必ずお知らせいただきますようお願いいたします。

《抗血栓薬の休薬または継続について》

脳梗塞、心筋梗塞、肺塞栓、静脈血栓症、心房細動や弁膜症手術後などで血を固まりにくくする薬（抗血栓薬）を服用されている場合、薬を服用したまま、出血を伴う検査・処置・手術を受けられると出血が止まりにくくなる場合があります。逆にこれらの薬を中止した場合、薬による予防効果が失われ、脳梗塞、心筋梗塞、肺塞栓症等の重篤な血栓塞栓症が起こることがあります。抗血栓薬にはバファリンなどの抗血小板薬と、ワーファリンなどの抗凝固薬があり、これらの薬を服用されている場合には、『薬を中止した場合の血栓症発症のリスク』と『薬を継続した場合の出血のリスク』の両面を検討して、休薬または継続の判断をしなければなりません。どちらの方針であってもリスクを完全に回避することはできませんが、血栓症・塞栓症のリスクの高い患者様などでは、抗血栓薬を継続したまま検査・処置・手術をお受けいただくことがあります。

《糖尿病用薬の休薬について》

糖尿病用薬のうち、メトホルミンやSGLT2阻害薬という分類の薬を服用されている場合、検査・処置・手術などのために食事が制限される期間があると、血液の中が酸性に傾きすぎ、昏睡になる場合があるため、休薬する必要があります。

今回の検査・処置・手術に対する常用薬の休薬または継続について

テスト 薬剤 様が常用されている内服薬のうち、次ページに記載されている薬剤は休薬または継続の必要がありますので、それぞれの指示に従ってください。特に指示がない薬剤に関しましては、検査・処置・手術の前日まで継続し、検査・処置・手術当日は休薬してください。

サプリメントや健康食品は原則として検査・処置・手術の一週間前までに中止して下さい。

説明年月日 2021/06/14

説明場所 _____ 担当医 _____ 印 _____

テスト 薬剤 様の常用薬に関する指示票

薬品名	担当医指示			
バイアスピリン錠 100mg	<input checked="" type="checkbox"/>	2021年6月1日	より休薬	<input type="checkbox"/> 継続
カナグル錠 100mg	<input checked="" type="checkbox"/>	2021年6月5日	より休薬	<input type="checkbox"/> 継続
メトホルミン錠 250mg	<input checked="" type="checkbox"/>	2021年6月5日	より休薬	<input type="checkbox"/> 継続
	<input type="checkbox"/>		より休薬	<input type="checkbox"/> 継続

特定看護師のご紹介

当院で活動する3名の特定看護師(いずれも集中治療部に所属)を本人のコメントとともに紹介いたします。
皆様どうぞよろしくお願いいたします。

はじめまして。市立大津市民病院で特定看護師として勤務する水嶋です。突然ですが、皆さんは『看護師の特定行為研修制度』についてご存じですか？

特定看護師：水嶋 将吾



2025年には、病院や地域で病気を抱えながら療養する患者さんがこれまで以上に増加すると見込まれています。その結果医療の受容と供給のバランスが崩れ、必要な時に必要な医療を提供できなくなる状況が予想されます。近い将来、特定看護師は医師に代わって特定行為(医行為の代行)を実施するべく、必要な知識・技術の習得と実践に努めています。例えば、経口摂取が困難な方への輸液の選択と実施、状態に応じた人工呼吸器の設定変更、きめ細やかな血糖値のコントロール等、特定看護師は様々な場面で活躍の可能性を持っています。

看護師の特定行為研修制度は、まだまだ世間的には認知度は高いとは言えず、医師や患者さんからの信頼を得ることが課題の一つとなります。大切なのは、あくまでもひとりの看護師として患者さんに寄り添う姿勢を持つことです。その中で、患者さんが真に必要なとする援助と苦痛を緩和するための技術をタイムリーに提供することが、私たち特定看護師の使命となります。

特定看護師：貞廣 純子



特定看護師(本院での呼称)としてICU(集中治療部)で勤務し3年目を迎えました。ICUには3人の特定看護師がいます。多くの方々に支えられながら少しずつ活動の場を広げています。

急性期であるICUでの主な役割の一つは、多くの重症者を管理する医師のタスクシフトを担うことです。従来、医師が行っていた動脈に留置する点滴の挿入、動脈を穿刺する採血などを看護業務として実践しています。医療処置は日々の経験と省察が上達の鍵です。冷汗をかきつつ向かい風の中を進むかのように日々成長中です。当院は新型コロナウイルス感染症による重症肺炎の治療をおこなう感染症指定医療機関でもあり、今後は人工呼吸器の設定をより良い状態に調整するための一助として特定看護師の役割を担うことが私の目標です。

在宅医療で活躍する特定看護師もいます。各々の場所で向かい風の中を進む仲間がいることに感謝し、退院までの過程を患者様が安全・安楽に過ごすことができるよう日々努力していきます。

特定看護師：穂積 洋平



6月から集中治療部で勤務している特定看護師の穂積洋平と申します。

3年前に滋賀医科大学で1年間研修を受けたのち特定看護師として活動してきました。以前勤めていた病院でも集中治療室、救急外来、病棟において人工呼吸器の設定の変更や動脈ラインの確保、気管カニューレの交換などの特定行為を中心に実践してきました。他にもNPPVの設定の変更や鎮静剤の投与量の調整、カテコラミンなどの循環作動薬の投与量の調整、高カロリー輸液の投与量の調整なども特定行為として実践できます。特定看護師としての経験はまだまだ浅く、日々、知識や技術の取得に努めているところであります。

大津市民病院においても特定行為を1つの手段として活用することで、患者さんによりタイムリーで適切な治療が受けられるように努めていきたいと考えています。

今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

8/14(土)の地域医療連携室の休業について

土曜日は通常8:30~12:30まで地域医療連携室にて予約業務を行っておりますが、8/14(土)は休業させていただきます。

いただきました予約FAXは8/16(月)に対応させていただきます。何卒よろしくお願いいたします。

地域医療連携室の移転について

入退院センターの機能拡大に伴い、地域医療連携室は8月末(日程未定)に現在の2階から1階、正面玄関近くに移転いたします。移転完了次第、改めて詳細についてご案内させていただきます。

2年目研修医 note

①名前：石井 健太 (いしい けんた)

②出身大学・卒業年度：

京都府立医科大学・令和2年卒

③趣味・特技・好きな時間の過ごし方など：

バスケットボール・NBA 観戦、ガジェット、映画

④医師を目指した理由：

子どもの頃に難病の祖母と時間をともにし、同じように病気で困っている人の力になりたいと考えたからでした。

⑤どんな医師になりたいですか？：

脳神経疾患を患っている患者さんに寄り添い支えていけるような医師です。

⑥研修医2年目の目標：

研修医全体で研修生活を盛り上げていくこと、専攻医となる3年目に向けて知識・経験を蓄えていくことです。

⑦地域の先生方へのメッセージ：

医師としてまだまだ未熟なところばかりではありますが、大津市民の方々の力になりたいと考えております。機会がありましたらご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



MSW アイコさん



作・画
まきろん

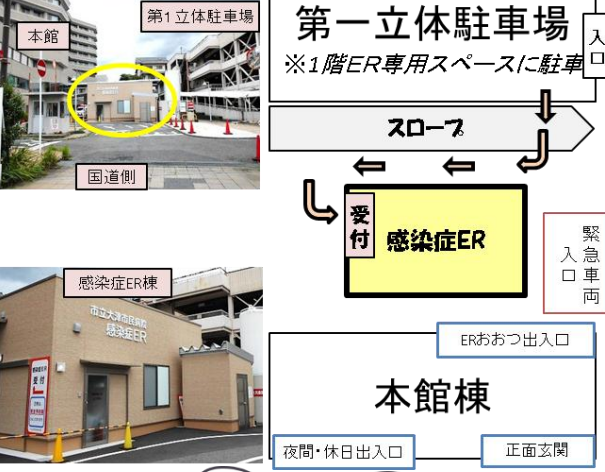


クイズの答え：1 ページ目 右下/2 ページ目 右上/3 ページ目 左上/4 ページ目 MSW アイコさんタイトル中央/右下 御神輿内

地域医療連携室より

地域の皆様今日は。平素より大変お世話になっております。
 地域医療連携室 室長の山澤弘子と申します。職種は看護師です。もともとは当院で看護師長として病棟管理をしておりましたが、異動により現在は地域医療連携室の業務に携わらせていただいております。
 地域医療連携室の業務は様々ありますが、中でも今回は、発熱外来へのご紹介実績について簡単にご紹介させていただきます。

当院の発熱外来は2020年3月より運用しております。当初はERおつ内でゾーニングしながらの診療でしたが、その後、新たに感染症ER棟が2020年12月に完成、12月21日(月)より運用開始となり、現在に至っております。



京都市方面 ↑ 国道1号線 ↓ 草津

この間多くの発熱患者様のご紹介を頂きました。2021年1月～6月の実績では、小児、成人合わせて合計4629件の発熱患者様の診療をさせていただいておりますが、その内780件(平日：461件、夜間休日：319件)のご紹介をいただいております。

COVID-19においては第5波の懸念もある中、収束の行方は不透明で不安材料はありますが、市立大津市民病院の地域医療連携室としましては、感染をしない、させない、拡大させないを実現させるため感染対策を徹底しながら、地域の皆様のご要望に可能な限り丁寧にお応えしていく所存ですので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



地域医療連携室 室長：山澤 弘子